

2008年度

# 新潟大学国際センター 年報

Annual Report  
of Niigata University  
International Exchange Support Center  
2008



# 目 次

ページ

I. 新潟大学国際センターの任務	1
II. 2008 年度の活動	11
1. 地域社会国際交流支援	13
2. 大学(諸外国)間交流	17
(1) 清華大学サマーセミナー	17
(2) 漢語水平考試受験対策講座	17
(3) 中国における海外拠点調査等	18
(4) シンガポールでの短期留学体験	18
(5) シンガポール国立大学・シンガポール教育機関との国際連携と国際交流	20
(6) 第2回「上海に行こう」	21
3. 日本語・日本事情教育	22
(1) 日本語等研修コース(学部・大学院入学前予備教育)概要	22
(2) 日韓理工系学部入学前予備教育概要	27
(3) 10週間特別日本語プログラム概要	28
4. 短期留学プログラム	32
5. 生活指導	37
6. 海外留学支援	39
7. 「総合大学における外国語教育の新しいモデル」事業 (平成19年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」)	42
8. その他の活動	45
(1) 留学生に対する就職支援 ～新潟における大学の支援と産官学ネットワークを活用した取組み～	45
(2) 留学生の異文化交流・地域交流・学内活動	49
9. 平成20年度海外での日本留学フェアへの参加	50
III. 教員活動報告	51
足立祐子	53
阿波村稔	55
池田英喜	57
柴田幹夫	59
張雲	61
藤田益子	63
宮田春夫	65
IV. 資料	71
新潟大学国際センター規程	73

## 宮田 春夫

### 研究テーマ：環境と開発に関する南北関係

多様な主体が多様な役割を果たす複合的相互依存の国際社会において、環境と開発のための南北関係はどうあるべきか、全地球的レベルから地域共同体レベルまで、また、多国籍間協力、二国間協力を包括的に捉えて、政策のあり方を探っていきたいと考えています。

また、教育においては、理論と現実の両方を見ることにより、理論を現実に即して理解すること、また、対応を理論に基づきつつ現実に即したものとすることができる学生を育てたいと考えています。

所属学会：国際開発学会、環境科学会、International Studies Association

### 1. 授業

「教養教育に関する科目」及び課題別副専攻「平和学」の授業のほか、農学部、理学部及び現代社会文化研究科の授業も担当しました。2008年度は、「教養教育に関する科目」として「人類共同体のための国際環境政策学」を新規に開講しました。

学部レベルで英語で開講している教養教育に関する科目は、短期交換留学プログラム科目としても重複指定しました。そのほかにも、課題別副専攻「平和学」及び「環境学」に指定されている科目があります。

課題別副専攻「平和学」として単独開講している科目は、開発途上国の問題に強い関心を持つ学部生・大学院生のために始めた勉強会を正式な授業としたものです。

#### 本学における担当授業一覧

開講期	授業科目名	備考
春	Applied Research of International Relations: North-South Relations for the Environment and Development	教養教育に関する科目。短期交換留学生用開講科目、課題別副専攻「環境学」科目、課題別副専攻「平和学」科目としても指定。 環境と開発を巡る南北関係に関わる諸課題と政策のあり方。大学院レベルの内容を、学部生向けの評価方法にして開講。
	国際開発協力演習（環境と開発）	課題別副専攻「平和学」科目。 開発援助と環境の事例について、政府、非政府の援助関係者から直接話を聞く機会をも取り入れて、意図通りまたは真にそれを必要としている人に届く援助の難しさという現実を直視した上で、積極的に評価できる面を評価し、そうでない面についてはどのようにしたら改善できるのかを学生が考える機会を提供。
	国際開発協力論：「開発」概念 I	課題別副専攻「平和学」科目。 OECD 開発局の職員たちが書いた「開発」についての考え方の変遷を紹介した本（英語）を使い、どのようにして「開発」についての認識が深まっていったか、どのような背景の下に各々の開発理論が論じられたか、それぞれの開発理論がどのように開発援助等に影響したか等を論じる。

	自然環境関連法規	農学部専門科目。複数教員分担のうちの条約等に関する2コマ他。
秋	Environmental Policy Study: History of Environmental Problems and Development of Policies in Japan	教養教育に関する科目。短期交換留学生用開講科目、課題別副専攻「環境学」科目としても指定。 明治から現在に至る日本の環境問題の歴史と政策の展開を見ながら、どのような環境問題の変化、社会の変化、国際関係により環境政策が変わって来たのかを論じる。
	国際開発協力論：「開発」概念 II	課題別副専攻「平和学」科目。 「改革派」とされる考え方の流れを汲む Amartya Sen が「Development as Freedom」（英語原著）で整理した「開発」の幅広い概念を学ぶ。
	North-South Relations for the Environment and Development	現代社会文化研究科。 環境と開発を巡る南北関係に関わる諸課題と政策のあり方。
	人類共同体のための国際環境政策学	教養教育に関する科目。 どうして環境に関する国際協力を行うかに重点を置いて、背景の国際秩序の課題、「持続可能な開発」の本来の意味、「地球環境問題」と捉える無意識の課題認識、「持続可能な開発」の状況を示すエコロジカルフットプリント、国際協力の歴史等の基礎について論じた上で、多国間協力、条約、ODA 等の個別課題について論考。
	環境政策論	理学部自然環境科学科専門科目。 明治から現在に至る日本の環境問題の歴史と政策の展開。背景の社会情勢等を詳しく論じる Environmental issues in Japan よりも政策課題を詳しく論じることに重点。
集中講義	開発途上国の環境と開発：事例研究	教養教育に関する科目。課題別副専攻「平和学」指定科目。一種の集中講義として、9月の2週間のマダガスカル現地調査を中心に開講の予定であったが、条件が整わないことにより2008年度は実施を断念。

なお、2008年度には他大学の非常勤講師は行いませんでした。

## 2. 課題別副専攻「平和学」

従来から課題別副専攻「平和学」のために数科目を開講していましたが、12月からは課題別副専攻「平和学」委員会に参加しました。また、明治学院大学国際平和研究所シンポジウム（2月）への参加、ベトナム中部及びホーチミン市のベトナム戦争関連施設訪問（3月）等により、課題別副専攻「平和学」のあり方についての研究及び教育素材集めを進めました。

## 3. その他の教育活動

現代社会文化研究科博士前期課程学生の修士論文の指導、同博士後期課程研究生の指導、課題別副専攻「平和学」修了ペーパーの審査等を行いました。

また、1月には、農学部の授業の拡大版として外部の方にも参加して頂いて行われた福島潟のラムサール条約登録湿地に関するワークショップに参加しました。

## 4. 研究活動

### (1) 学会活動

国際開発学会（6月、11月）、International Studies Association（2月）、環境科学会の年次会合（9月）等に参加するとともに、国際開発学会の論文の査読を行いました。

### (2) フィールド・スタディーに関する研究会

「百聞プラス一見」の力を学生につけさせるべく、授業で知識を得ることに加えて、効果的かつ安全に開発途上国の現場を見る機会を重視しているため、引き続き、「大学教育における海外体験学習研究会」（9月、神戸）、恵泉女学園大学大学の「専門性を持った教養教育としての海外体験学習：社会的公正をグローバルに目指す市民の育成」プロジェクト報告会（3月）等に参加し、フィールド・スタディーの更なる効果・充実等の課題に取り組みました。

加えて、NGOからの取り組みについて、特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンターのベトナム・プロジェクト報告会、同新潟国際ボランティアセンターの「地球を知る講座」としての特定非営利活動法人ACEによる児童労働に関する活動、外務省主催 ODA モニター・ツアー、(社)日本キリスト教海外医療協力会によるバングラデシュでの医療協力報告会への参加、同センターが支援しているホーチミン市の障害児等のための施設の訪問、特定非営利活動法人西アフリカ農村自立協力会（CARA）パネル討論会「アフリカ その豊かさと言貧しさ」への参加等も行いました。

### (3) 著作

- ・ 国連「人間」環境会議は「人類」環境会議であった—「持続可能な開発」の基礎としての「人類の福祉」の意識—、環境科学会 2008 年会講演要旨集（9月）：別の学会に提出中の論文のテーマである「持続可能な開発」の基礎にある「人類」共同体意識を、環境基本法、1972 年の国連「人間」環境会議との関連で論考。
- ・ 地球温暖化という開発課題と「人類の福祉」（吉田栄一（編）「アフリカ開発援助の新課題：アフリカ開発会議 TICAD IV と北海道洞爺湖サミット」 pp. 45-67）、アジア経済研究所（4月）：2007 年度に参加したアジア経済研究所「アフリカ開発援助の新課題—第4回東京アフリカ開発会議（TICAD IV）への政策提言」研究会の中で行った研究の結果をそれぞれの参加者が執筆したもの。
- ・ 「アフリカと地球温暖化：地球温暖化という開発課題と「人類の福祉」—TICAD IV と G8 サミットの機会に—」（2008 年 8 月 5 日、新潟大学勉強会）配付資料（要旨）、12 pp.（新潟国際ボランティアセンター「地球を知る講座：気候変動問題とは何か：G8 洞爺湖サミット・TICAD アフリカ開発会議をきっかけとして、私たちにできることを考える」講演（2008 年 7 月 5 日）の内容をアップデートして文書としたもの）
- ・ 「環境」とアフリカと日本—人類共同体の生き残りに向けて前進を、アジア研ワールドトレンド No. 159、pp. 8-11（12月号）：上記「地球温暖化という開発課題と「人類の福祉」」の内容を基に、一部加筆もして一般向けにしたもの。
- ・ 「アフリカの開発における食と教育＜トーキング・タイムのための参考メモ＞」、第7回 JICA にいがた国際協カタウンミーティング：なじらね、アフリカ～新潟発、アフリカ体感の旅によろこそ～、2009 年 2 月 21 日（土）朱鷺メッセ、35 pp.

## 5. 開発途上国との協力、開発途上国の実情等を知り、同じ人類社会の未来を共有していることを理解するための特別講義等

開発途上国との協力、開発途上国の実情等を知り、同じ人類社会の未来を共有していることを理解するため、実際に協力に従事している方等から講演等して頂いて具体的な知識を得る会を、一部については課題別副専攻「平和学」の開講科目「国際開発協力演習（環境と開発）」と関連付けつつも、その科目の履修生以外にも開放し、また、特に意義があるものについては学外にも開放して企画・開催しています。多くの場合、テーマは、開発途上国との協力に関心を持っている学生たちの希望を考慮して選定しています。

なお、JICA の出前講座等、外部講師にお願いする際には、講師の旅費等の経費は研究費から負担しています。

### (1) 特別講義「人間としての基本的ニーズのための援助の考え方とその事例」

6月27日、学生たちの希望するこの講義テーマを設定の上、JICA 出前講座として依頼し、雲見昌弘・(財)日本国際協力センター・キャリア相談員（元 JICA 環境・女性課長、東北支部長等）に講義をして頂きました。事例として、ミャンマーでの援助についてお話下さいました。

### (2) 「フィリピン：棚田の村の環境と開発—春休みのボランティア体験から」報告会

6月2日、春休み中の1ヶ月間、フィリピンのイフガオ地方で日本の NGO による農村開発のボランティアを行った農学部学生からその経験を聞く会を開催しました。目標の設定、適切な手段等に関し、援助活動の難しさもよくわかる報告会でした。

### (3) 特別講義「アフリカと地球温暖化：地球温暖化という開発課題と「人類の福祉」—TICAD IV と G8 サミットの機会に一」

下記5(2)の新潟国際ボランティアセンター「地球を知る講座」に参加できなかった学生が多かったため、8月5日、主に本学学生向けに、私が同じ内容で（但し、最新情報を追加。）特別講義を行いました。

### (4) 新潟水俣病語り部の話を聞く会

国際協力そのものではありませんが、問題の現場や事実の確認を重視している立場から、新潟県立水俣病資料館「環境と人間のふれあい館」の「環境学習プラン」と「語り部口演会」を組み合わせて、私の授業の履修者等のうち希望する学生が同資料館において、水俣病被害者等の経験談を聞き、併せて同資料館を見学等する機会を休日に設けています。これまでの参加者は、主に留学生及び環境専攻でない日本人学生（環境専攻の学生には、別途そのような機会があります。）で、水俣病が、健康及び経済面だけでなく地域社会の一体性の面でも大きな苦難を生じさせたことがよく理解できる機会になっています。

2008年度は11月に実施しました。

## 6. 社会貢献等

5月にアフリカ開発会議が開かれたため、その関連での講演等の機会が数回ありました。

### (1) 仙台市シンポジウム「動物園を通じた国際協力」

5月31日、仙台市が主催したこのシンポジウムで、宮城教育大学・斉藤千映美准教授、



東京大学総合研究博物館・遠藤秀紀教授、(財)進化生物学研究所・宗近功主任研究員、盛岡短期大学・吉原修教授(元駐マダガスカル特命全権大使)、国立チンバザザ動植物公園・ハイングソン園長とともに、パネル・ディスカッションに参加し、「マダガスカルの自然とともに、マダガスカルの人たちの生活も学ぶ機会を作って、同じ人類の仲間意識を育てることを」と題して話をさせて頂きました。なお、このシンポジウムには、マダガスカルの外務大臣、経済・貿易大臣他のマダガスカル政府要人、アンタナナリボ大学教授他も参加されました。

(2) 新潟国際ボランティアセンター「地球を知る講座」講演

7月5日、特定非営利活動法人新潟国際ボランティアセンター主催「地球を知る講座」として、「「アフリカと地球温暖化:地球温暖化という開発課題と「人類の福祉」—TICAD IVとG8サミットの機会に一」と題する講演を行いました。

(3) 駐日マダガスカル大使館主催マダガスカル写真展への参加

12月、駐日マダガスカル大使館とマダガスカル航空が共催して駐日大使館で開かれた「マダガスカル写真展」に、「開発途上国の環境と開発:事例研究」を履修した学生たちとともに、これまでマダガスカルを訪問した際の写真を多数出展し、プロの写真家、マダガスカルの研究者、青年海外協力隊員等の写真とともに、展示して頂きました。また、閉会式においては、駐日大使から直接感謝状を頂きました。

(4) JICA「地球ひろば」のマダガスカルの「食」展示への協力

3月の1か月間、JICA「地球ひろば」(東京・広尾)がマダガスカルの「食」に関する展示を行うに際し、展示する写真の提供の依頼があったため、学生たちや現地で話を伺った協力隊員と協力して、多数の写真を提供しました。

(5) JICAにいがた国際協力タウンミーティング企画会議への参加

今年度の「JICAにいがた国際協力タウンミーティング」(2月21日)がアフリカをテーマに開かれることになったため、9月以降、その企画会議に参加し、議論のリーダーのために資料「アフリカの開発における食と教育」を作成・提供する等しました。

(6) にいがた青年海外協力隊を育てる会への参加

11月に発足した「にいがた青年海外協力隊を育てる会」(会長:平山征夫・新潟国際情報大学学長)に設立発起人、会員等として参加しました。

## 7. その他

次のところにウェブサイト을設け、授業についての詳細情報の提供等を行っています。

<http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~miyatah/>